

■令和4年2月（予算案発表）定例記者会見内容

- 1 日 時 令和4年2月14日（月）16:00～16:50
- 2 場 所 市役所本庁舎3階第1・2委員会室
- 3 出席者 ○市長、総務部長、危機管理監、企画部長、デジタル変革調整監、地域創生部長、市民部長、健康福祉部長、地域医療調整監、建設部長、農林水産部長、教育次長、教育次長（学）、財政課長、企画調整課長、市長公室長
○酒田記者クラブ9社（朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、河北新報、山形新聞、荘内日報、NHK、YBC、YTS）
コミュニティ新聞社（記者クラブの承認により出席）

■市長発表事項

1 酒田市令和4年度当初予算（案）について

※冒頭 進行より配布資料の確認。市長より概要版に基づき発表。

市長／ご苦勞様でございます。ようやく令和4年度の当初予算案がまとまりましたので記者発表させていただきたいと思ひます。

1枚目の資料をご覧いただきたいと思ひます。予算規模は558億1,000万円でございます。前年度に比べますと、8,000万円ほど増えております。対前年度比でプラス0.1%でございます。

令和2年度が実は一番大きな予算規模だったわけで、それに次いで、過去に2番目の予算規模という状況になっております。

ただ、実際令和3年度、今年度の予算ですけれども、コロナの補正等がありますから大体100億円くらいは決算見込みでは増えておりますので、当初予算だけを比較すればこうだということでご理解をいただきたいと思ひます。

そこで今回予算編成方針として、重点施策4項目ほど挙げておりました。

カーボンニュートラル社会への社会の実現への貢献、それから、コロナ禍から得た教訓を活かすまちづくり、さらには、社会包摂による共生社会の実現、4番目として市民にやさしいデジタル変革の推進という、この柱のもとに、予算要求を受け付けまして、精査した結果、この金額にまとまったというものでございます。

ちょっと右側の方に移っていただきたいと思ひます。

主な歳入の状況でございますが、市税、地方交付税、その他ということで、整理をさせていただきます。

ことのほか市税について、見ていただければわかりますように、比較的、個人市民税、法人市民税、特に法人市民税はプラスになっておまして、意外と市税落ち込みがなかったなという状況になっております。

それから次の地方交付税も、対前年度との増減からすると10億円近くプラスになっておまして、普通交付税が増収となっているということがございます。

歳入面で、そんなに落ち込みがなかったということで、基金に積み立てる金額もしっか

り確保できたというのが、今回の予算の特徴でございます。

それから、その他のところを見ていただきたいのですが、やはり何と言いましても、ふるさと納税の寄附金、これが30億円近く見込めたと。これも、令和3年度の実績を踏まえた上での歳入という形で計上させていただいておりますけれども、30億円を見積らせていただいているということで、歳入がある意味思ったほど落ち込まなかったということを受けての予算のまとめにさせてもらっています。

それから、その下の歳出の状況でございますが、ここにつきましては、詳細書いてございますけれども、投資的経費が例年よりも10億円ほど少なくなっております。

令和3年度までの段階でございますが、例えば、みなと保育園でありますとか、或いは駅前ミライニでありますとか、さらには、日和山の小幡楼ですとか、大きな投資的事業が大体終えたということが大きな要因となっております。

投資的経費の内訳を見ていただきたいのですが、駅周辺整備事業につきましては、これは酒田駅前の広場、タクシー乗り場とか、それから駐輪場なんかもあるんですが、駅前の再開発事業の完成後に、少し綺麗に整備をしたいという事業がございまして、それに3億円ほど投資的事業として投入をするということでございます。

それから、法人立保育所等の施設整備事業ということがございますけれども、これにつきましては、法人立の保育所、特に今回、酒田ふたば園さんが新築工事に入りますので、その部分に対する補助金、これが多くなっているということで、このところの金額も少し多くなっております。その他の保育園、幼稚園の改修等の予算もこの中には含まれておりますけれども、一番大きいのは、酒田ふたば園さんへの補助金ということになります。

それから、体育施設の耐震改修事業でございますが、結構大きく投資的経費を占めておりまして、中身は、八幡体育館の耐震改修の事業費でございます。

それから、その下の国体記念体育館の改修事業でございますが、いよいよ国体記念体育館につきましては、これは、令和元年度からずっと計画的に進めておりまして、4年度、5年度で、本格的な改修工事に入ります。令和4年度は、外部の改修工事でございますが、その金額が8億3,000万円ほど計上させていただいておりますが、そのあとに、令和5年度になります。今度内部の改修工事に入ります。そうしますと、当然内部ですから、使用することができませんので、施設の休館をしながら、内部改修工事を行うということになります。令和4年度、実際は8億円ほどでありますけれども、令和5年度には13億円か14億円ぐらいかかるだろうということで、大きな事業費をここで投入すると、このような予算措置になっているところでございます。

その他の経費につきましては、補助費とか積立金とかありますけれども、この積立金に9億円ほどを計上しておりますが、先ほども申し上げましたけれども、市税、交付税等の増収もございまして、今回は財政調整基金にも積立てを行っております。基金積み立ての状況、4年度末の主な基金残高と見込みということで表記させていただいておりますけれども、財政調整基金は28億円ほど。以下3基金だけ掲載をさせていただいておりますが、今回の予算措置にあたっては、私ども、特に意識したのは相当歳入が厳し

いだろうということもあって、一定程度その財政調整基金なども取り崩しながら予算を組まないといけないかなという思いで、予算の編成作業に当たったところでございました。

そういった中で、何とかこの28億円ほどの財政調整基金を保持することができた。これは、やはり市の財政にとって、今後様々な災害、今年度も、除雪でかなりの予算を組みますけれども、やはりこの非常時に備えた財政調整基金はしっかり保持しておかなければいけないという、そういう認識のもとで、この財政調整基金をしっかりと確保する、そういう前提での予算編成に当たったわけでございます。

そういった意味では、本来20億円を切るかもしれないという状況の中ではあったんですけども、28億円ほど確保できたということは、市の財政にとっては、今後の財政運営上はプラスに作用できたかなと、そんな思いを持っているところであります。

主な新規拡充事業ということで左側の方に主なものを挙げさせていただいております。今回の予算編成の基本的な柱としては何かというと、やはりコロナ禍の教訓を活かすまちづくりという意味では、やはりデジタル変革、これに少し注力をさせていただいております。

特に、主要な新規拡充事業の中の上から2番目ですね、デジタル変革事業というものがございまして。

そこに記載してありますように、デジタル変革の推進のために、まず来年度の柱としたのが、市民と市とのコミュニケーション窓口となるポータルサイト、これは市民マイページという形で、仮称であります。これを構築していきたいということ。その先にあるものは何かというと、単語で言うと、バーチャル市役所という言葉を使うしかないので、将来デジタル上で、様々な市役所との間の手続きが可能になるような、そういったものをしっかり作っていきたく。そのために、ベースとなるプラットフォームをしっかりと作っていきます。

そして、具体的にはその双方向で役所と市民、個人がやりとりをできる環境を整えていきたいということで、この市民マイページを令和4年度にしっかり構築をしていきたいとこのように考えております。

今回の記者会見資料①にデジタル変革資料のページが載っているかと思っております。

これをご覧いただければと思いますけれども、今回この1億7,400万円という事業費を投入いたしました。その中身というのは、市民マイページの構築、それから酒田リビングラボの実施、これは市民が参加する形でワークショップを展開して、市民目線で、この地域の生活課題等を洗い出しまして、デジタル技術を活用した解決アイデア、その試作品の製作を行うなど、産官学民共創によってデジタルで解決を図ろうとするってことなんですけれども、リビングラボ、ワークショップから様々なデジタルを活用した課題解決技法を生み出していこうという事業を実施するというものです。

あとはその3番目として、行政手続きのオンライン化を可能にしていく、その手続きを増やしていこうというもの、これが主な柱になっておりますが、一番はやはりこの市民マイページの構築、これに多くの予算を投入することにしております。

ここにつきましては、詳細取材いただく、或いは今日もデジタル変革調整監が来ておりますので、ご質問をいただければとこのように思います。

次に、観光戦略・インバウンド推進事業ということで、1,800万円ほどございます。数年前から酒田市でも、DMO、デスティネーション・マネージメント・オーガニゼーションという組織を立ち上げたいってことを言ってきましたけども、来年度、一般財団法人という形で、このDMO組織を立ち上げるということで、予算を設定させていただいております。

観光に加えて、地域商社の機能なども持たせながら、いよいよ組織化を図って、コロナ禍明けに向けて、観光が復活した時の地域経済の再生を目指して、この組織を中心に、それから地元経済界と一緒にあって、人を呼び込む施策を市と一緒に、この組織と連携をしながら進めることができるとこのように思っております。

次に、耕畜連携推進事業というものがございます。

これは、ご存知のどおり、鳥海山のところでノベルズグループさんが、酪農経営を開始しております。

そういった中で、この地元の農家の皆さんが一番困っている粃殻の活用ですとか、土づくりですとか、こういったものと牛舎から出る牛の尿ですとか、汚泥ですとかそういったものを活用して農業に生かそうということで、連携をした事業を展開したいということで組んだものでございます。資料に具体的な対策ということで、そこに4つほどございます。こういった事業を通して、耕畜連携によって、この地域の農業生産基盤をしっかりと支えていこうというのがこの事業の中身でございます。

それから、防災対策強化事業というものがございます。

B&G財団の防災拠点整備助成金というものを頂戴して、特に新しい消防本部の敷地に防災備蓄倉庫を建設したり、或いは避難所等で活用することができる移動式のエアコンですとか、大型テント等の大型資機材の配備をする、或いは学校避難所の入口の段差解消の簡易式のスロープを整備するといった形で、この助成金を有効に活用させていただいて整備をする事業がこの中身でございます。

それから、いわゆるデジタル変革事業の一部にもなるとは思いますけれども、GIGAスクール推進事業でございます。

これは、令和2年度に1人1台の端末を整備させていただきました。今回は、協働学習支援ソフトの新しいソフトを導入することで、より教育効果が上がる児童生徒への学習の仕組み、そういったものを構築しようということでございます。

2022年のところを見ただけであれば、授業支援ソフトの充実、それから教職員研修の充実、そして、ふれあい教室のWi-Fi化、こういったものを中心に展開をしていくということで、4,400万円ほどの予算化でございます。

あとは、国体記念体育館につきましては先ほど申し上げましたけれども、令和4年度と5年度で大改修に入るということで、令和4年度分の予算を上げさせていただきました。以上が、令和4年度の当初予算の概要でございます。

一般会計の予算ではございますけれども、基本的には、今回、大型の建設事業等は落ち

着いておりますが、まずは、デジタル変革戦略を作って2年目になりますので、そういった意味では、そこの事業を一つ大きな柱として付けさせていただいた。

それから、令和5年度以降、また新たな事業が出てくる可能性もありますのでそれに備える形で、まずは、市の行政経営の基盤ともいべき市の財政の健全経営を確保するために、基金等について、もう少し充実をさせるために積立てをしているというのが、今回の予算の大きな柱となったところでございます。

あと、一般会計ではないのですけれども、皆さんの方に一言お話ししたいのが、国民健康保険税でございます。

国民健康保険税につきましては、これまで2ケ年、減額措置を講じてきておりますけれども、令和4年度の国民健康保険税につきましても、3年連続という形で減額をさせていただいております。

2,000円ほど減額して率にすると2.38%税率を下げるという扱いになります。

今一人当たりの税額8万9,000円なんですけども、この改正をしますと、一人当たりの税額が8万7,000円ほどになると、2,000円ほど引き下がりますよということになります。

あくまでも一人当たりで、平均的な税率ということになりますので、所得等によって個人差がありますので、平均という捉え方をしてもらいたいと思いますが、3年連続で国民健康保険税率がつかまして、引き下げをさせていただいております。

以上が令和4年度の予算の特徴的なところを、お話させていただいたところでございます。

あとは、中身につきまして、個別にご質問にお答えする形で、令和4年度予算の説明に代えさせていただければと思います。

記者／今回の予算の目玉としてデジタル変革があるが、その中でも一番大きなものを占めるのが市民マイページですが、その稼働については、いつ頃を予定しているのか。

市長／年度末の予定です。

記者／予算の中で、マリンファイブ清水屋、あの辺りの再生というか、にぎわい創出に関するものが、特にないのでしょうか。

市長／特にないです。具体的な事業の中身が定まってないということが一つあるかと思いますが。

現在のところ、どういう形で支援をするのかまとまったものがないということで、先ほど、令和5年度以降に、様々なまた市として予算措置をしなければならない大きな事業もあるというふうに申し上げましたけれども、清水屋の跡地の話ですとか、或いは商業高校の跡地の話ですとか、さらには山居倉庫の土地・建物の買い戻しとか、大きな資金投入を必要とする可能性がある事業が控えているということもあって、今年度は、まずは基金等の充実を意を用いたということでもあります。

記者／歳入の状況で、法人市民税の方が、21%増えたということだが、これはどういった理由でしょうか。

財政課長／市税につきましては、やはり酒田市だけではなくて、全国的に法人税並びに

市税等が、上向きになっているという状況等を踏まえまして、また、令和3年度の実績並びに国が示しました地方財政計画におきましても、伸びがあるということがありましたので、税務課と協議をした結果、この数字として見込みをさせていただいたところでございます。

記者／積立金について、この9億200万円のうち、財政調整基金への積立て分というのは、いくらぐらいになるのか。

財政課長／先ほど市長の方から、財政調整基金の話をしていただきましたが、現時点で実は財政調整基金についての金額というのは利子分しか実は見ていない状況になっています。

ふるさと納税の寄附金が非常に増える見込みが出ております。市としましてはふるさと納税でいただいた寄附金つきましては、さかた応援基金に一定程度の割合を積むと、そういう意味で来年度6億4,000万円ほどの積立を計画させていただいた。

あと大きいのが、今年度3月補正で提案させていただきますけれども、市長からも話ありましたけれども、体育館なり、公共施設の改修がこれから多く入ってまいります。そうしますとどうしてもそこに投入する資金の必要になってまいりますので、公共施設等整備基金というのを、今年度の3月補正で要求をさせていただいて創設することになっております。

こちらの方にもできれば毎年1億円ほど積んでいきたいというふうに思っておりますので、その部分が大きい要因になっております。

市長／すいません間違えました。財政調整基金は補正で積んでおります。

財政課長／財政調整基金については、今年度9月の決算議会のときと、それから今の3月補正で、不要になった部分について、大きく財政調整基金に積ませさせていただきます。3月補正で6億2,200万円ほど積ませていただいております。9月の補正のとき9億2,000万円ほど積ませていただいております。

市長／今年度のうちに積んで28億円を確保できているということであります。

今年度補正で積んだ分が、いわゆる歳入が確保できたことに伴って積ませていただいたということで、新年度予算の中では財政調整基金は利子分だけとなります。

記者／そういった基金の積立というのは、行政基盤の安定ということでは意味は変わりないということでしょうか。

財政課長／本来であれば、税収と地方交付税で賄える金額で歳出と歳入のバランスが取れば一番よろしい訳でございますけれども、現実的には、基金を取り崩して予算を編成しているというのが酒田市の近年の状況であります。そういう中で、やはり当然基金というのを使って事業せざるを得ない部分がありますので、その基金というものを一定程度担保しておくということが、酒田市の予算編成、それから行政サービスの執行において必要なものと考えております。

市長／今までの予算編成と少し私の考え方が変わったのは、財政調整基金の考え方です。財政調整基金は、その年の歳入・歳出の過不足を補う便利なお財布みたいな、そういう捉え方をした嫌いがあったんですけれども、私が財務部長の時に議会で答弁したのが唯

一抛り所なんですけど、財政調整基金はどのくらいあったらいいのかという質問が出たときに、当時の会津若松市が標準財政規模の10%くらいを目途にしておりました。それを参考になるかなということでは私は答弁したことあるんですけども、それからすると、酒田市の標準財政規模は、現時点だと300億円ぐらいです。

そうすると、財政調整基金は30億円ぐらいが、あまり無理せずに持ち得るいわゆる貯金かなと思っております。この豪雪だとか、或いはコロナ禍だとか、想定外の災害等が発生したときに財政投入する財源になるとか、大規模な経済ショックなどが来たときも、そういうものを投入することになると思うんですけども、そういう意味で30億円くらい持ち得ればということを目標に抱えつつ、全体の財政運営は回していきたいなと思ってますので、財政調整基金はしっかり維持していこうということを念頭に置いて、今回、予算査定をさせていただいたところであります。

30億円までにはいっていませんが、まだちょっと足りないんですけども、可能であれば、少しずつ、そういったもの或いは先ほど財政課長も言いましたけども、公共施設の今後維持管理にかなり多くの財源を必要とします。そういった公共施設の維持管理に係る事業予算、一般財源ですけどそれはやはり計画的に積み増しをして、大改修という時に備えようということも一つ念頭に置いて、予算査定をさせていただきました。先ほども、国体記念体育館の話をしてしまいましたが、相当な改修事業費が掛かるわけです。ちょっとした体育館だったら新しいのができるくらいの改修費が掛かります。

そういったことにも、やっぱり所要財源をしっかり維持をした上でないと取り組めないということもありますので、将来を見据えた上で、新しい基金も創設をさせていただきますし、これは今年度の創設ということで、3月議会に提案させていただきますが、そこへの積み増しも含めて、基金をしっかり維持すべきものは維持をして財政運営をしようということで、今回、予算編成をさせていただいたところでございます。

記者／重点施策の第1項目にカーボンニュートラル社会の実現がありますが、資料を見る限り、カーボンニュートラル、エネルギー関係の事業が見当たらないのですが。

市長／森林経営管理推進事業だとか、或いは耕畜連携事業もカーボンニュートラルの事業ということで、位置付けにはなっているんですけど、これから、たぶん多く出てくるんだろうなということがありまして、予算としては、とりわけ多くは組んでおりませんが、実は、現在、国、県と連携をして、カーボンニュートラルポートの実現に向けた取り組みが進んでおります。そこに市も絡んでおりまして、予算的にはないのですけども、カーボンニュートラルについての様々な動きは出てくるだろうということで、来年度の柱には据えさせていただいたということでございます。

今後、洋上風力であるとか、それに伴う基地港湾の指定だとか、今年から来年、再来年にかけて動きが具体的に出てくるかと思えます。

そういったことも睨みながら、施策の柱として掲げておりますけれども、令和4年度の主な具体的に、実弾としては、あまり大きな金額はないということで理解をいただきたいなと、このように思います。

国、県との連携した事業が柱になるのかなということで、現時点では捉えていただけ

ばいいかなと思いますが、時代がどんどん動いていますので、共同火力の動向も含めてそれから、実は環境省が様々な事業を展開しております。当初予算では、位置付けすることができませんでしたけれども、今後、環境省のカーボンニュートラルの補助事業に手を上げていく予定にしておりますので、当初には無いですけれども、当初予算の1号補正、或いは6月あたりまでの補正の間に追加という形で事業が出てくると思いますので、そういった捉え方をいただければと思います。